



T-time

帝塚山学園広報誌

2018/Dec.

第4号

2018年12月17日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



温もり *with warmth*

人のぬくもり 心のぬくもり…

痛みも苦しみも嘘のように消えていく

人を心から包み込む優しさ、温かさ

それは何も語らずとも心で感じるもの





「ハトの広場」前にて
学校法人 帝塚山学園理事長
吉川 勝久

ごあいさつ

近鉄学園前駅の発祥の地となった学園前キャンパスには、学園の象徴ともいえるハトの広場が広がります。

百数十羽の鳩が舞い上がるオブジェの上には銀色の天文台がそびえ、キャンパスの美しい景観を演出しています。

この美しいキャンパスで帝塚山学園は、2歳児教育、幼稚園、小学校、中学校高等学校、大学までを擁する総合学園の結びつきを大切に、人と人の心をつなぐ温もりを育てています。

学園創立80周年を迎える2021年度には、記念の年にふさわしい姿で迎えらるよう教職員一同、尽力、精励してまいります。

今後共、変わりませぬご支援をお願い申し上げます。

3 近鉄学園前駅に新看板

近鉄学園前駅の大阪難波方面ホーム及び奈良方面ホームに設置の帝塚山学園看板をリニューアルしました。それに伴い、新たに地下連絡通路北側正面に、ポスターも2箇所掲示しています。

駅をご利用の際には是非ご覧ください。



大阪難波方面ホーム



奈良方面ホーム



ポスターボード

4 学園前アートフェスタ2018

4年目を迎えた「学園前アートフェスタ2018」、今年のテーマは「イマ・ココ・デアイ(出会い)」。

多様性に富む作品への出会いを通して、様々な表現や異なる価値観、人生観に触れ、人と人との新たなコミュニティが創出されました。



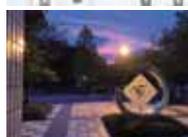
大和文華館文華ホールに展示されたアート作品



浅沼記念館に展示されたアート作品

CONTENTS

温もり	1
Hot News	3
教育連携対談 帝塚山小学校長・帝塚山中学校高等学校長	5
今を時めく人・帝塚山アーカイブズ	7
同窓会	8
幼稚園	9
小学校	11
中高	13
大学	17



「T-time」(第4号)は、デザイン監修を、帝塚山大学居住空間デザイン学科 辻川ひとみ学科長、表紙デザインを、同学科 大里浩二准教授、表紙イメージ画は、同学科 山本史非常勤講師の協力を得て、作成しています。



T-time 第4号表紙
帝塚山幼稚園イメージ画

「T-time」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
「T-time」をお楽しみください。



HOT NEWS

学園イメージの向上やブランディングにつながる取組を発信します。

1 公式ホームページのリニューアル

学園ホームページを、スマートフォンやタブレットでも見やすい画面に全面リニューアルしました。

また、トップページには学園PR動画を採用しました。本誌「T-time」のピックアップニュースなど、タイムリーな情報発信を目指します。



PCイメージ

スマホイメージ



帝塚山学園公式HPはコチラ

2 新CM、天気予報フィラーを放映

学園の新CMが、10月より奈良テレビ放送「ゆうドキッ! (毎週水・金曜日17:58~19:00)」で15秒間放映されています。また、毎週金曜日「天気予報(21:57~)」では、新天気予報フィラーが2分15秒間放映され、その前後にもCMが流れています。

【天気予報フィラー】
毎週金曜日 21時57分~
提供CM時間: 2分15秒



天気予報フィラー

【新CM】
毎週水曜日・金曜日
情報番組「ゆうドキッ!」17時58分~内
CM時間: 各15秒(幼小編・中高編・大学編)



幼小編CM



中高編CM



大学編CM



新CM・天気予報フィラーはコチラ

教育連携対談

池田節小学校長×池辺政人中学校高等学校長

テーマ「総合学園の強みを生かした教育連携」

帝塚山学園は、第4次中期計画の重点目標として「教育連携の強化」を掲げ、幼稚園から大学までが一体となってその推進に取り組んでいます。

今回で2回目となる「教育連携対談」では、学園教育を今後一層充実・発展させるため、池田節小学校長と池辺政人中学校高等学校長が、

総合学園の強みを生かした教育連携の在り方について対談しました。

(聞き手 教育連携室次長 奥田 秀紀)

はじめに帝塚山小学校と帝塚山中学校高等学校の特色について、お聞かせください。

池田 小学校の特色としては、まず第一に加速度的に進化を遂げる最先端の教育を先進的に実践していることです。具体的にはプログラミング学習やロボット学習、また1年生から英語教育に取り組んでいます。次に、自ら考える子どもを育て共感力を高める教育に取り組んでいます。本物に触れる体験を多く取り入れ、児童一人一人

の根っこを鍛える教育を進めています。

池辺 中学校の特色としては、生徒一人一人を大切にすることを実践し、生徒それぞれの進路や特長に応じた教育相談を行うなど、幅広い対応を行っています。また、昨年度からは、グループ学習によるポスターセッションなど、グローバルキャリア教育を進めていることです。

教育連携を進めるにあたり、総合学園としてのメリットをどのようにお考えですか。

池田 今年も昨年に引き続き中高の協力で中高グラウンドで運動会を実施することができました。ダンス曲が中高体育祭と重なったこともあり、小学生が中高生の練習を、また、中学生が小学生の練習風景を見ていました。小学生が目標とする先輩の姿と中学生が成長してほしいと願う先輩の姿が同じキャンパスだから目にすることができ、互いに親近感が生まれ好ましい雰囲気となりました。中学生が日曜日にもかかわらず、進んで小学校の運動会の片付けをしてくれたことが小学校にとっては何よりうれしいことでした。

池辺 これまで、内部の連携を意識できていない頃は、小学校の活動がなかなか見えにくいものですが、こうして学園の小学生が運動会などの学校行事を通じてグラウンドを共有することで、互いにつながっているんだという意識が芽生え始めています。練習とはいえ、同じ空間を使って、互いに小学生と中学生が同じ場所で活動する姿が見えることは小学生、中学生共に、人間的な成長にとって、とても意義あることだと感じています。

中学入学までに身に付けさせておきたいことや身に付けておいてほしいとお考えになることはどのようなことですか。

池田 一つ目は自分のための主体的で自主的な学習習慣を身に付けておいてほしいことです。二つ目は、試験や入試のためではなく、学ぶことは楽しいと実感し、この先、学び続ける生徒に育ってほしいと思うことです。現在は1年生から6年生まで自学ノートを作って日々の歩みを振り返る習慣を身に付けています。三つ目には、発信力と表現力です。自分が発想した考えを発信する力やたとえうまく話せなくても書いて表現する力を身に付けておいてほしいと思います。

池辺 中学校入学までを意識いただき子どもたちに身に付けてくださることは本当に感謝すべきことです。生徒は、教科学習だけでなく、何事にも問題意識や課題意識をもって関わることでおもしろさを実感し成長するものと思います。入学当初から互いを意識し合うことを重視して4月末に学園祭を実施し生徒間の交流を図っています。また、HRでの仲間づくりや学級担任との面談を実施し互いの理解が進むように努めています。



池田校長 連携は帝塚山ブランドを高める



池田小学校長・奥田教育連携室次長・池辺中学校高等学校長



池辺校長 互いの交流が人間としての成長

小学生への中学見学や体験、保護者への説明はどのようにされていますか。

池辺 昨年度から初めて小学4年生の保護者向けに学校見学を行いました。小学5年生には直接中学校に引き、中学校での授業体験など体験学習を行っています。早い段階で帝塚山中学校の生活を知ってもらおうと、内部の連携にも役立ち、帝塚山中学校の魅力を感じていただけたとありがたいと思います。

小・中高間の教育連携について今後、新しくどのようなことを取り入れたいとお考えですか。

池田 これからは、何よりも先に「授業交流」を行っていきたくと考えています。現在、小学校から幼稚園へは英語、算数、図工の専任教員が園児に教えています。中学の先生には、是非小学校に来ていただき何らかの授業をしてほしいと思っています。二つ目はクラブ活動などでの「生徒間交流」です。そして三つ目は「先生間交流」です。研究授業をお互いに参観し合うことでそれぞれの校種理解につながると思います。ま

た、クラブ活動や合宿への参加など、子どもたちへの指導をサポートしていただくことで、子どもたちが中学校に進学してからの安心感や親密感をもつきっかけになるのではないのでしょうか。

池辺 三つの交流を進めるにあたっては、まず企画段階から始めることで小中の教員間の相互理解も深まると思います。まずは、できるところから始めていければと思います。

池田 交流によって生徒や教師間の互いの理解が深まります。いわゆる出前授業や部活動のサポートをいただくことでは教員免許がなくても可能です。中高理科部ロボット班の先生方や生徒たちに直接小学校のロボット部に来てもらえればうれしいです。また、生徒間交流では吹奏楽部やバスケットボール、サッカーなどの交流を是非進めてほしいと思います。先生間の交流では、教科の研究授業やテニス部合宿、剣道部の交流等が実現できればと思っています。

池辺 現在は生徒交流としては、小学生の体験学習を中学校で実施していますが、逆に小学校を会場に中高の教員が授業を行う

と児童や保護者の受け取り方が変わり、内部の連携を実感として深くお知りいただくことになるかもしれません。

学園創立80周年の2021年までに小学校から中学への内部進学率が70%となることには、どのような効果があると思いますか。

池田 他の私学など、内部進学率の高い学校は多いですが、内部進学率が高い学校は世間に「連携ができていいる」という学園への信頼感が高まり、帝塚山ブランドを高める効果があると思います。

池辺 昨年度から小学校4年生の保護者を対象に学校説明会を始めたのがとても有効な連携になったと思います。一方、内部進学率を高めるためには、帝塚山中学校以外を受験する児童にも帝塚山の魅力を発信する必要があります。スーパースelectionコースなどは勉強だけでなく、クラブ活動や学校行事に伸び伸びと取り組んでいきます。男子は受験一本というイメージはあるようですが、体育祭やコーラスコンクールで活躍する男子の姿をご覧いただければ、他の中学校よりも帝塚山中高を選んでいただけると思います。

今後の抱負について、お聞かせください。

池田 小学校から中高へ進学し、学習やクラブ活動、生徒会で活躍していることや社会に出て活躍していることを聞く大変嬉しいです。そうした先輩を外部講師として小学校に引き、児童の前で話してもらっています。子どもたちも「自分たちの先輩」となると、興味津々でインパクトも大きく違いますが、社会に目を向け、自分の将来に目を向けるきっかけにもなります。そして、先輩に対して誇りをもつようになり、ひいては学園への誇りにもつながります。これが帝塚山ブランドを構築することになり、帝塚山ファミリーの輪が広がっていくこと

になると思います。こうした催しをどんどん実施していきたいと思っています。

池辺 中学校高等学校では、社会人講師を招待して講演をお願いすることがあるのですが、その方が本校の卒業生だと生徒にとっても身近な人となり、質問自体も面白くとても盛り上がりやすくなります。これからの時代は全員で勉強することが大事で、まず自分でやってみて初めて達成感もてると思います。また、発想力などは、普段からずつと考えているからこそ身に付くものだと思います。自分が考えていることを大切にずつと温めておくことで、初めて何かの形にしていけることができます。つまり、そこに核になるものがあれば、自分から勉強していく力に変えていけるように思います。そんなことをどこかで生徒に伝えていきたいと思っています。

富岡将人学園長より

現在、帝塚山学園の教育連携は、教育連携室が中心となって推進しています。なかでも帝塚山小学校と帝塚山中学校高等学校の連携は、総合学園としての強みを生かす重要な内部連携であり、学園発展への要になると考えています。

何よりも先ず連携そのものは、窓口となる人と人との関係で成り立っているものです。小学校、中学校高等学校のそれぞれが、この先、学園の課題でもある内部進学推薦制度の拡充をはじめ、望ましい連携の在り方を見出し、全教職員の共通理解の下に創意工夫ある取組を進めていただくことを願います。



今時めく を

京都大学高等研究院特定助教 (動物行動学 比較認知科学)
小学校・中高56期生

もなみ
リングホーファー 萌奈美さん

「馬の心が知りたい」

「馬は人と遺伝子的には遠いが、社会的には近い。馬は人の心を読んでいるように思いのまま動いてくれる」

馬の心を知りたいとポルトガルの高地で200頭以上の野生の馬を観察し、群れの行動を調査。この3年で順応性や忍耐力など、馬の天性の素質もわかってきたという。

人をどのように理解しているのか、乗馬クラブで実験を繰り返し、データを集め、馬の知性や心の研究をしている。

リングホーファーさんは「馬とのコミュニケーションによるセラピー効果、乗馬による運動効果で心身共に活力が生まれます。ストレス社会の今こそ、馬のよさを知ってほしいです」と語る。

「好きな仕事は どんなに苦しくても耐えられる」

小学校では生き物係。亡くなった飼育動物を墓に埋めた思い出がある。後輩には「理由なく楽しく、充実感が味わえるものを大切に。好きな仕事はどんなに苦しくても耐えられる」と話してくれました。



帝塚山アーカイブズ

帝塚山学園は2021年、創立80周年を迎えます。
学園に残された写真から総合学園の歩みを振り返ります。



〈帝塚山幼稚園〉

- 1 昭和31年当時の幼稚園。木造校舎の左側にあり、奥は中高の円型校舎。木造校舎は同年12月に火災に遭いました。
- 2 昭和27年に開設された幼稚園の園児募集ポスター。
- 3 昭和52年に新築された手前の白亜の建物が現幼稚園舎。



中高同窓会だより



8月26日、帝国ホテル大阪で開催された帝塚山学園同窓会総会。2期生から72期生まで150人が出席、「帝塚山ファミリーとして、同窓会も学園創立80周年事業に積極的に支援していきたい」と挨拶する綿谷基同窓会長。



春日大社で10月6日、文化行事が行われ、会員と家族95人が花山院弘匡宮司の講話を聞いた後、重文「直会殿」で特別祈禱を授かり、本殿(国宝)近くで特別参拝した。



8月25日、「三期生友の会」が68回目の同期会を開催し11人が参加。共に米寿を祝い合い、卒寿に向かって元気に再会することを誓い合う三期生友の会の皆さん。



5月26日、22期生卒業50周年記念同窓会が奈良ホテルで開催され、59人が出席。池田元一先生ら恩師3人を囲み、再会を喜び合う22期生の皆さん。



第21回同窓会ゴルフ大会個人戦で優勝し、綿谷基会長からトロフィーを受ける貝阿彌由香里さん(39期)＝写真右、2位は小嶋宏昌さん(17期)、3位は藤井文彦さん(35期)。

団体戦は、36期が2年連続優勝、2位35期、3位23期。



8月19日、大阪市内で卒業後初の51期生同窓会が開催され、63人が参加。川野直男先生ら恩師7人を囲み、22年ぶりの再会を喜ぶ51期生の皆さん。



帝塚山学園の学園章・校章について

帝塚山学園が昭和16年、今の近鉄学園前駅近くに旧制中学校を開設したとき、美しいアカマツ林に囲まれた環境にちなみ、松の葉とまつかさ、「帝」の文字をあしらった学園章が制定されました。アカマツの持つ力強さと風雪に耐える永遠性、成長と結実、円があらわす円満と完結などの理想を象徴しています。平成12年度に校章の見直しが行われ、学園章を校章として使用することになりました。

人間形成の基礎を培う

12月、朝夕の冷え込みも厳しくなり、もう後何日かで園舎もすっかり冬の装いになりそうです。そうした中、園児たちは、秋の大行事である運動会を経験し、お友達と協力することの大切さや思い切り身体を動かすことの楽しさを味わい、一段とたくましく成長しました。

また、小学校や大学との連携行事を通して、直接体験から得られる興味・関心、探究心などを広げ豊かな心を育てています。

帝塚山幼稚園では、学園教育の入り口である幼稚園・2歳児教育から、人間形成の基礎を培い園児一人一人のしっかりした根っこを育てています。



一日の活動を終えて…



2



3



4



5

1 10月14日、秋の運動会で、かけっこやリズム演技、組立体操などに日頃の練習成果を発揮する園児たち。塚本真紀園長は「みんないい顔です。最後まで楽しく元気にできました」と園児の頑張りを讃えました。

2 7月13日、園の体験をテーマにした「てづキッズ発表会」でリズム演奏や合唱をする園児。年長組は宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を暗唱。塚本園長は「幼稚園の庭が教科書。子どもの気付きを育て小学校へつないでいきたい」と幼小連携の大切さを話しました。

3 7月2日、大学現代生活学部食物栄養学科4年生新宅ゼミ、相川勇人さんらが年長児に野菜についての食育講座を開催。クイズ形式で園児にわかりやすく説明しました。「興味をもってもらい、野菜嫌いをなくしたい」と熱っぽく話しました。

4 9月13日、帝塚山小学校3年生が紙芝居を実演。役柄に扮して「ぶんぶく茶釜」や「わらしべ長者」などの紙芝居を披露。小学生たちはそれまで国語科の時間に猛練習。余りの熱演ぶりに引き込まれ聞き入る園児たち。

5 9月29日、帝塚山中学校高等学校の樋間聡教諭による「親子でサイエンス教室」を開催。園児と保護者45家族が参加しました。親子で体験する不思議な科学の世界に目を輝かせ、驚きの表情を見せる園児たち。



子どもたちの自己肯定感を育てる

「自分がかげがえのない大切な存在である」といった、いわゆる自尊感情は自己肯定感と呼ばれ、乳幼児期から小学校高学年までのそれぞれの発達段階において、大切に育てていくことが大切なものです。

秋の運動会では、児童たちの躍動する姿や高学年児童が低学年児童を優しくいたわる姿、また1年、6年の親子競技では、親子の温もりを感じるシーンが数多く見られました。秋は子どもたちがぐんと成長する時期。自然の不思議や雄大さを発見し、視野を広げる社会見学など、本物にふれることで引き出される限りない子どもたちの可能性。

帝塚山小学校教育は、自分で考えることを通して、子どもたちの自己肯定感を育て人生の基盤となる根っこを鍛えています。



1 10月7日、運動会。午後1番は4色対抗応援合戦。新テニス女王大坂なおみに扮して熱気溢れる応援をした赤組が1位。総合点も802点で見事優勝。池田節校長は「どの組もアイデア溢れる応援だった。今日の頑張りを財産にしてほしい」と児童を讃えました。

2 11月4日、恒例の幼小合同バザー(育友会主催)が開催され大変賑わいのあるバザーとなりました。メッセージを乗せた色とりどりの風船が空に舞い上がり、遠く千葉、埼玉、山梨、岐阜から「メッセージが届いた」と、連絡がありました。

3 8月のWRO(ワールドロボットオリンピック)奈良大会の小学校ミドル部門で優勝した4年月組の右京聖惟君=写真左、田中構太郎君=写真右=チーム。エキスパート部門は5年星組の五味航君、永井遥万君、玉井美伶さんチームが優勝しました。

4 10月26日、県文化会館で開かれた小学校音楽祭で合唱する児童。各クラス2曲の合唱の他、コーラス部、吹奏楽部、和太鼓クラブの発表がありました。ピアノ演奏をした卒業生が「音楽は生きる力につながります」と語ってくれました。

5 7月、母の母校である小学校に特例留学したカナダ人のワトソン・カーター君=写真後列中央。1年星組の児童は「わずか2日間だったが、心と心がつながったようで幸せな気持ちになった。カナダに遊びに行くよ。僕のことを思い出してね」と語りました。



力一杯綱を引く児童を手旗で応援する池田節校長

一人一人の可能性を引き出す

第2学期の一大行事はやはり2000名以上が集う中高体育祭。グラウンドいっぱいに響き渡る歓声と弾ける笑顔、迫力ある演技や競技。非日常な一日を中高生が共に過ごすことで、互いの理解が深まり、尊重し合い、そして友情が育まれます。生徒たちにとってはかけがえのない一日であり、生涯決して忘れることのない時として心に刻まれます。

また、放送やCGコンテスト、英語弁論大会、弦楽部の台湾との国際交流など、それぞれの大会や部活動で大切な時間を過ごしています。

帝塚山中学校高等学校では、たくましく麗しくを大切に、全教育活動を通して、総合的な人間力を高め、一人一人の可能性を引き出す教育に日々取り組んでいます。



1 10月2日に開かれた中高体育祭。鮮やかでしなやかな女子ダンスや力強い男子集団演技。応援に力が入るクラブ対抗綱引きやクラス対抗800mリレー。池辺政人校長は閉会式で「みんな表情が素晴しかった」と生徒の頑張りを讃えました。

2 川口勝利教諭の指揮で「マンマ・ミーア」を合同で練習する中高弦楽部と台北市立大安国民中学弦楽部員。大安中学の呉宏哲先生は、「帝塚山の演奏レベルは高く、内容のある国際交流となりました」と話しました。人の心を結ぶ音楽の出会いになりました。

3 11月、第52回奈良市中学校サッカー新人大会で中学サッカー部が初優勝を飾りました。大会には13チームが参加、強豪校相手に準決勝まで勝ち抜き、決勝では富雄南中と1-1で引き分け、規定により両校共、優勝旗を手に入れました。

4 高円杯第70回全日本中学校英語弁論大会県大会で暗唱の部で優勝した三船あか梨さん(2九)=写真左、弁論の部で3位となり全国大会に出場した尾崎文香さん(3九)=写真右。

5 福井国体の女子400mリレーに出場した高校陸上部の玉井理子さん(2H)=写真左、小原夢美さん(1G)=写真右。玉井さんは女子400m、小原さんは同100mにも出場。玉井さんはU18日本陸上競技選手権大会の女子200mなどにも出場しました。

6 第15回埼玉工業大学CGコンテストで最優秀賞と埼玉県知事賞を受賞した数学研究部の松岡夏鈴さん(1F)の「フルーツシティ」。また、中学部門では郷莉緒さん(1七)が優秀賞を獲得しました。



体育祭一日を終え、さわやかな笑顔で閉会式を迎える生徒たち



閉会式で生徒を講える
池辺政人校長

次世代を担うリーダーを育成する

次代を担うグローバルリーダーを育てる帝塚山中高教育。中高6年間での系統的なプログラムにより世界で活躍できる人材の育成を目指しています。夏休みには、米国ボストン大学に滞在しながら、ハーバード大学の学生らと交流、議論するプログラムや校内での米大学院生との英語研修など、世界に羽ばたく一歩として貴重な経験をする機会もあります。

また、ロボット全国大会での特別賞受賞や次世代型水道メーターの開発など、次世代のリーダーとして活躍できる人材の育成にも取り組んでいます。

帝塚山中学校高等学校では、今しかできない経験を積み重ねることで、生徒一人一人の個性を伸ばし、豊かな人間性を育んでいます。



1 米国の大学院生ら12人を講師に生きた英語を学ぶ5日間の「エンパワーメントプログラム」に高校1年生67人が参加しました。

2 プログラムの最終日に全員が2分間ずつ、英語でコミュニケーションスキルの大切さや将来の夢などをプレゼンテーションしました。

3 8月、WRO日本大会で自律型ロボットのサッカー大会で機動力が評価され、特別賞「大阪工業大学賞」を受賞した中高理科部ロボット班の山中碧君(1C) =写真左、と藤本一輝君(2三) =写真中央。

4 ハーバード大学を訪問した高校2年生22人。7月、ボストン大学を拠点に6日間の研修を行いました。また、マサチューセッツ工科大学で日本人学生に会い、「努力すればやれると実感した」と話しました。

5 奈良市月ヶ瀬地区で水道施設を見学する高校理科部ロボット班の大江宏明君(2B)ら。冬場、凍結で水道管が破裂するため、漏水箇所の発見につながると開発中の次世代スマート水道メーターの実用化が期待されています。



人間性を磨き社会で活躍できる力を育む

社会における即戦力となる知識や技能、そしてコミュニケーション力。実学とは実になる学びであり、奈良市に存する大学として、地域連携や産官学連携を通じて多くのプロジェクト学習に取り組んでいます。

4年間、五條市の道の駅でのレストラン「TEZU café」の運営や大和野菜をふんだんに使った「御殿様弁当」、「たつた揚げ」をご当地グルメとして紹介するなど、地域と密着しながら生きた知識を身に付け、楽しんで自身の進路選択を進めるよう支援しています。両キャンパスの恵まれた環境と伝統に支えられ、学生たちは、なりたい自分になるために、思い思いのキャンパスライフを通して、人間性を磨き社会で活躍できる力を育んでいます。また、大学教員もフォーラムや各種講演会を開催するなどして一層地域連携に取り組んでいます。



1 300点の応募があった第1回大学フォトコンテスト。グランプリは「また明日。」=文化創造学科4年岩本拓也さん、特選が「夏の夕日~TEZUKA~」=食物栄養学科4年鬼頭瑞季さん、「私の大好きな大学」=日本文化学科2年ハシバト・トゥンガラグさん。

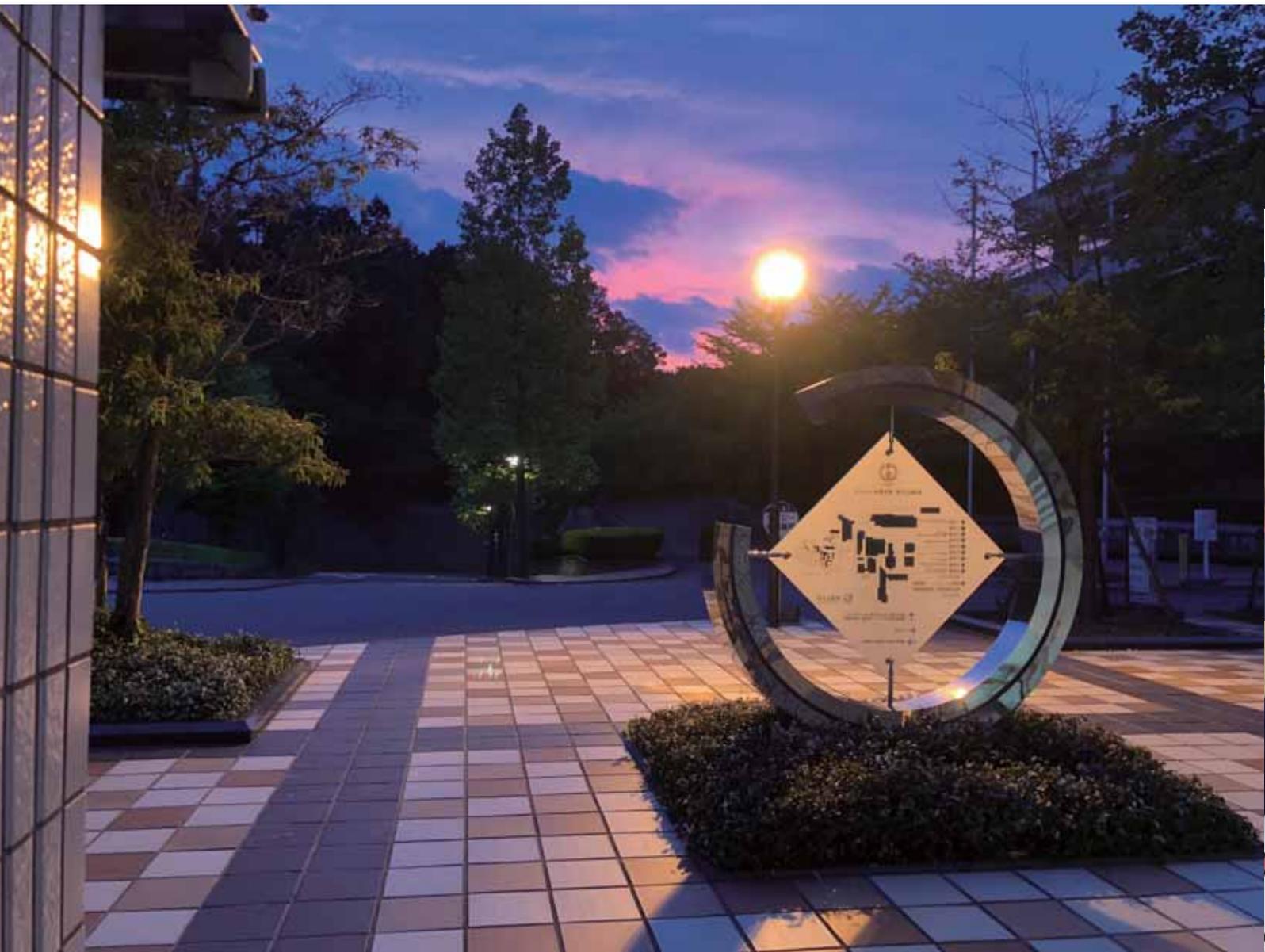
2 12月1日、大学・中高・小学校が連携し、4年生にロボット教室を開催。こども学科勝美、清水ゼミ生が中高理科部ロボット班顧問の協力でプログラミングを学び、地図上で奈良市内を観光するゲームを考案。児童は、ロボットを動かしてゲームを楽しみました。

3 大和の伝統野菜などの地元の食材を使った煮物や田楽など、10種類の総菜と赤米入りのご飯など、新しく「御殿様弁当」のメニューを考案した食物栄養学科の佐伯ゼミ生ら。

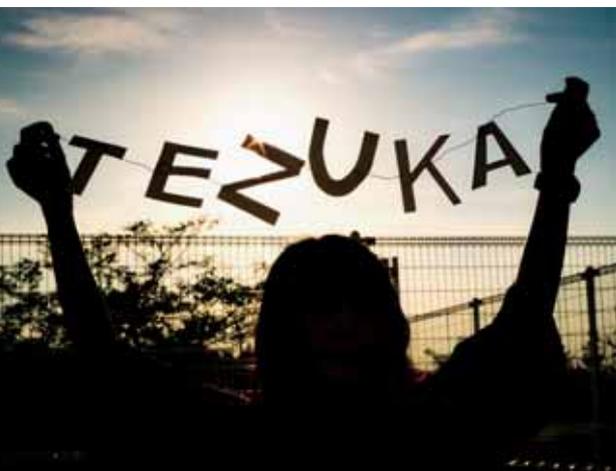
4 五條市の道の駅「吉野路大塔」でレストラン「TEZU café」を運営した食物栄養学科の河合ゼミ生。地元食材を使ったカレーやスイーツなどの独自メニューを提供。4年間歴代先輩から引き継がれてきた活動は好評を得ました。

5 10月14日、文学部は、興福寺中金堂の落慶記念フォーラムを開催。小説「龍華記」の著者、澤田瞳子さんと興福寺の辻明俊執事を招聘。清水昭博学部長の案内で南都焼討から復興時の瓦を焼いた遺構を見たことが執筆の柱の一つになったと話されました。

6 9月8日、蓮花一己学長が幼稚園で保育参観した祖父母に高齢者ドライバーの運転リスク対処法を講演。個人に応じた教育プログラムや安全運転支援装置付の車に乗っていただくことを提唱しました。



グランプリ『また明日。』



特選『夏の夕日～TEZUKA～』



特選『私の大好きな大学』



入選
『小さい秋見つけた～』



入選『木々から見える夕空』



入選『秋の通りかぜ』



左から
鬼頭さん、
岩本さん、
トゥンガラグさん



学校法人 帝塚山学園
Tezukayama Gakuen